

## 岩手県野田村の支援・交流活動報告（2013年11月16日）

前日までの凍りつくような寒さとは打って変わって穏やかな快晴の天気で、今日もよい一日になる予感がしました。本日の活動では、歌声喫茶の運営を担当してくださった市民団体赤とんぼの会の会員15名、市民参加者5名、学生21名、教員1名の全部で42名でした。残念ながら無断欠席学生が3名いたため、定刻より5分遅れて、弘前大学を出発しました。

移動中の車中では、赤とんぼの会の相沢会長から日頃の活動内容に関する簡単な紹介がありました。このような場を通して、市内の市民団体の活動内容を知るということも大変意義のあるものだと思います。その後は、後期からの「東日本大震災復興論」の受講で参加した学生や初参加の市民の方もいたので、「チーム・オール・弘前」の設立経緯や今までの活動内容、そして活動の意義などに関して、事務局教員からの説明がありました。説明の後には、本日の活動を行うための班分けが行われました。



道の駅「おりつめ」での記念撮影



茶話会と歌声喫茶の様子

野田村には予定の10時半より10分遅れの、10時40分頃に到着しました。久慈市から野田村までの国道では、耐震工事に加え、工事用の車両の往来が多く、大変込み合っており、到着が少し遅れることになってしまいました。

野田中学仮設集会場に到着したら、10名近くの住民の方が我々を待っていてくださいました。その後、学生の一部は仮設住宅を回りながら声掛けを行い、市民参加者と赤とんぼの会の皆さんは茶話会と歌声喫茶の準備を進め、11時頃から歌声喫茶を実施しました。昔懐かしい歌をみんなで大きな声で歌っているうちに、皆が一つになったような一体感が生まれていたようです。

もう一つの歌声喫茶は、村営図書館内の研修作法室で行いました。こちらは参加人数が少なく、赤とんぼの会員の方と学生が役場周辺で声掛けを行いました。工事用車両の往

来が多いからかほとんど通行人がいなかったもので、子供たちを含め 6 名の参加でした。こちらでは、懐かしい曲を一曲歌うたびに、歌に交わる話に弾んでおりました。また、一緒に参加した小学生たちも最初は少し恥ずかしい様子でしたが、いつの間にか大きな声で歌っていました。図書館館内いっぱい広がる歌声に、時が過ぎるのを忘れていました。

恒例の児童クラブでの学生支援では、20 名近くの子供たちが我々の到着を心待ちにしている様子でした。児童クラブの窓から学生の皆さんを見つけるとは、大きく手を振って早く来てという仕草がとっても可愛かったです。児童クラブではいつものことながら、子供たちがお兄さんやお姉さんたちと、折り紙をしたり、お絵かきをしたり、じゃれあったりと元気いっぱい賑やかな様子でした。児童クラブの先生からはいつも子供たちが心待ちにしています。本当にありがとうございます、という温かい言葉をいただきました。

一方、先月から始めた中学生の学習支援は学校を通して広報を行ったにもかかわらず、残念ながら参加者が一人と少し寂しい活動になってしまいました。中学生の皆さんに十分に認知されていない結果だと思えます。これからも、いろいろと改善を試みながら活動を広めていければと思いました。



学習支援の様子



被災現場見学の様子

午後からは、赤とんぼの会の皆さんと茶話会のメンバーのみなで、野田村の被災現場を見学しました。海岸沿いの防波堤や防風林や、国道から見える野田村中心地区の被災現場などを見学しました。また、下安家地区まで足を延ばして、サケの養殖場や港の被災現場などを見て回りました。被災地の見学が初めてだった参加者も多く、大変意義のある時間になったと思います。

帰りのバスの感想タイムでは、「野田村の皆さんが大きな声と一緒に歌ってくださったことが忘れられない」「野田村の皆さんから元気をいっぱいいただいた」などの声が多く、また機会があればご一緒したいという声も多くいただきました。皆さんの懐かしい歌声に聴き惚れた一日でした。

(担当：李永俊)